

大学院

保健看護学研究科

教育理念と教育目標

グローバル化時代と少子・高齢社会、高度に専門・分化した保健医療福祉サービス体制の中で、看護ケアを受ける側の立場に立って高い見識と専門的知識・技術・態度で高度な看護ケアを立案、実施、評価できる看護実践者及び行政、経営・管理面における看護専門職者の果たす役割、教育者の役割は増大している。

本大学院は、このような時代や社会の要請に対応できる専門職業人のリーダーとして高度のケアを実践できる専門看護師等実践家、看護の管理者、学習や教育の原理を統合して看護教育に応用する教育者、研究活動によって新しい看護知識の創出に貢献する研究者、保健看護活動を通して新しい学問の創出に貢献できる人材の養成を目指している。上記目標を達成するために、当大学院では看護職を続けながら大学院で学べるよう、大学院設置基準第14条特例により夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができると定めている。

教育課程の編成

1) 分野および領域の構造

本研究科は、グローバル化、少子・高齢化、IT化、価値の多様化に伴って、人々の保健看護上のニーズに著しい変化があり、それらの課題に対応する質の高い看護職者に必要な教育課程である。

教育研究分野として3分野（文化間保健看護、生涯発達保健看護、先端保健看護）を設定し、その他にコア科目を設けて、コアカリキュラムとしている。

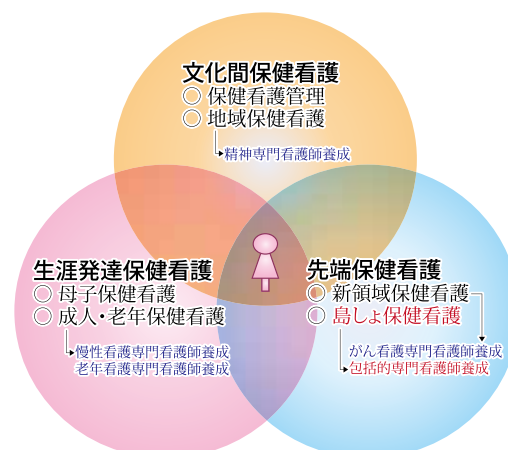


図 3分野6領域の構造

2) 分野および領域の特徴

博士前期課程と博士後期課程の双方に共通する3分野6領域である。すなわち、文化間保健看護、生涯発達保健看護、先端保健看護の3分野と保健看護管理、地域保健看護、母子保健看護、成人・老年保健看護、新領域保健看護、島しょ保健看護の6領域から構成されているが、両者は教育研究の深さと広さが異なる。

文化間保健看護分野は、保健看護管理と地域保健看護の2領域からなり、国内外のこれらの領域における知識と技術をマクロ及びミクロの視点から多重文化を軸として保健看護上の看護実践的問題解決のため、病院、施設あるいは地域において実践、教育・研究する。

生涯発達保健看護分野には、母子保健看護、成人・老年保健看護の2領域があり個人の出生前から死までの時間を軸として人生コースにおける保健看護の実践、教育・研究をすることを特徴としている。

先端保健看護分野には、新領域保健看護、島しょ保健看護の2領域があり、沖縄県の離島やへき地という地域に立脚して情報を活用しての保健看護活動、遠隔教育、先端医療に伴う看護ケア、島の地域づくりなどの実践、教育・研究を行う。

平成21年度から4分野（精神看護、慢性看護、老年看護、がん看護）の専門看護師教育を開始している。

平成21年度から長期履修学生制度が利用できる。